



環境報告書2015

Environmental Report

Denyo
デンヨー株式会社

目次

Contents



編集にあたって…p.3



製品における環境配慮 …p.9

環境性能の高い製品開発



マネジメント …p.4



生産面における環境配慮…p.11

社長メッセージ

環境基本理念

環境基本方針

環境管理体制

環境目標と実績

環境負荷の全体像

地球温暖化防止

資源循環型社会の形成

化学物質の管理



トピックス …p.14

本社事務所における環境対策の状況

開発拠点における環境対策の状況

生産拠点における環境対策の状況

編集にあたって

Editorial Statement



情報開示体制

持続可能な社会の実現に向けた弊社の環境面における取り組みについてステークホルダーの皆様へ下記の媒体にて情報を開示しております。

【年次環境報告書】



<http://www.denyo.co.jp>



報告対象期間

2014年度(2014年4月～2015年3月)及び一部内容についてはその前後の期間。

発行時期

2015年10月

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

お問い合わせ先



デンヨー株式会社

〒103-8566

東京都中央区日本橋堀留町2-8-5

ホームページ <http://www.denyo.co.jp>

経営企画室 TEL : 03-6861-1111

FAX : 03-6861-1185

免責事項

本環境報告書には、将来についての予想及び見通しが含まれている場合もございます。これらは様々な要素の影響により、実際と異なる結果になることがあります。

マネジメント

Management



Contents

社長メッセージ	…p.5	環境管理体制	…p.6
環境基本理念	…p.5	環境目標と実績	…p.7
環境基本方針	…p.5	環境負荷の全体像	…p.8

マネジメント

Management



社長メッセージ



この度は環境報告書をご覧いただきましてありがとうございます。また日ごろから弊社に関心をお寄せいただき御礼申し上げます。

さて、経済発展に伴い人類の暮らしは昔に比べ格段と豊かなものになっております。その反面、資源の減少や異常気象など、環境問題がますます深刻化し、企業活動におきましても持続可能な社会を目指した活動が求められています。

このような中、“技術で明日を築く—デンヨー”として何ができるのか、何をなすべきなのかを日々考え、地球環境に深く配慮しながら、優れた製品を作り上げてまいります。

2015年10月

デンヨー株式会社
代表取締役社長

古賀 繁



環境基本理念

デンヨーは、パワーソース製品の提供を通じて、社会インフラの拡充等にグローバルに貢献すると共に、企業の社会的責任として環境保全を深く認識し、環境と調和した事業活動を積極的に推進します。

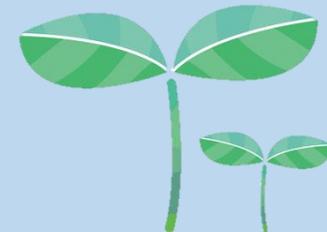


環境基本方針

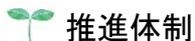
1. 事業活動における、省資源・省エネルギーの推進、廃棄物の削減、臭気・騒音の低減等、健全な環境の維持向上を図ると共に、環境に配慮した製品の提供を推進し、汚染の予防に努めます。
2. 環境に関連する法規制、及び当社が同意するその他の要求事項を順守すると共に、関連する社会的要求を尊重します。
3. 環境保全に取り組むためのマネジメントシステムを構築し、その継続的な改善を図ると共に、環境目的及び目標を設定し、そのレビューを通じて環境パフォーマンスの向上に努めます。
4. 環境方針は文書化し、従業員及び当社のために働く人全員に周知すると共に、広く一般に開示します。

マネジメント

Management

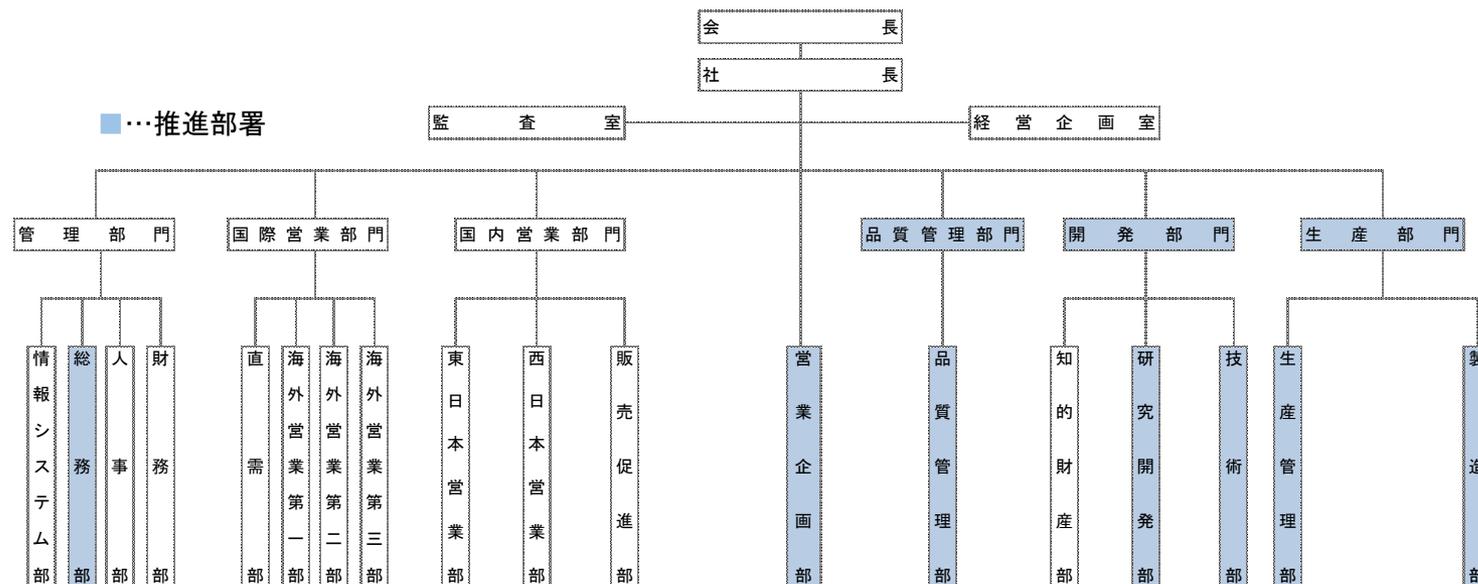


環境管理体制



推進体制

デンヨーでは、以下の推進部署を中心に環境負荷の低減に向けた事業活動を推進しております。



※国際営業部門、国内営業部門につきましても一部担当しております。



ISO14001認証取得

2006年10月19日付けで、環境マネジメントシステム (ISO14001:2004) の認証を取得しました。
省資源・省エネルギーの推進によるCO2排出量抑制、さらには事業を通じて総合的な環境負荷の低減に向けた事業活動を行ってまいります。

マネジメント

Management



環境目標と実績

環境経営を実現するために、年度毎に目標を定めその評価を随時行っております。

項目	2014年度の目標	2014年度の実績	2015年度の目標
環境性能の高い製品の開発	「環境配慮型製品」を開発する。	排出ガス規制対応機等の開発を行った。	「環境配慮型製品」を開発する。
資源循環型社会の形成	2014年度末までに「生産高当たりの産業廃棄物の量」を2011年度比10%以上削減する。	・2011年度比排出量1.8%減 ・2011年度比生産高当たり8.3%減	2015年度末までに「生産高当たりの産業廃棄物の量」を2011年度比10%以上削減する。
	2014年度末までに「生産高当たりの原油換算エネルギー使用量」を2011年度比15%以上削減する。	・2011年度比使用量18.2%減 ・2011年度比生産高当たり23.9%減	2015年度末までに「生産高当たりの原油換算エネルギー使用量」を2011年度比25%以上削減する。
社会貢献活動	「事業所周辺地域に隣接するグリーンベルトなどの整備、清掃活動」を1箇所以上行う。	・福井工場・滋賀分工場では、工場周囲の清掃活動を実施。 ・研究開発部では、開発研修センター周辺の清掃活動を実施。埼玉県環境部より、緑の配置や維持管理状況が認められ「優良緑化計画認定者」の認定を受ける。 ・本社総務部では、本社ビル周辺の清掃活動を実施。	「事業所周辺地域に隣接するグリーンベルト」の整備充実を図る。

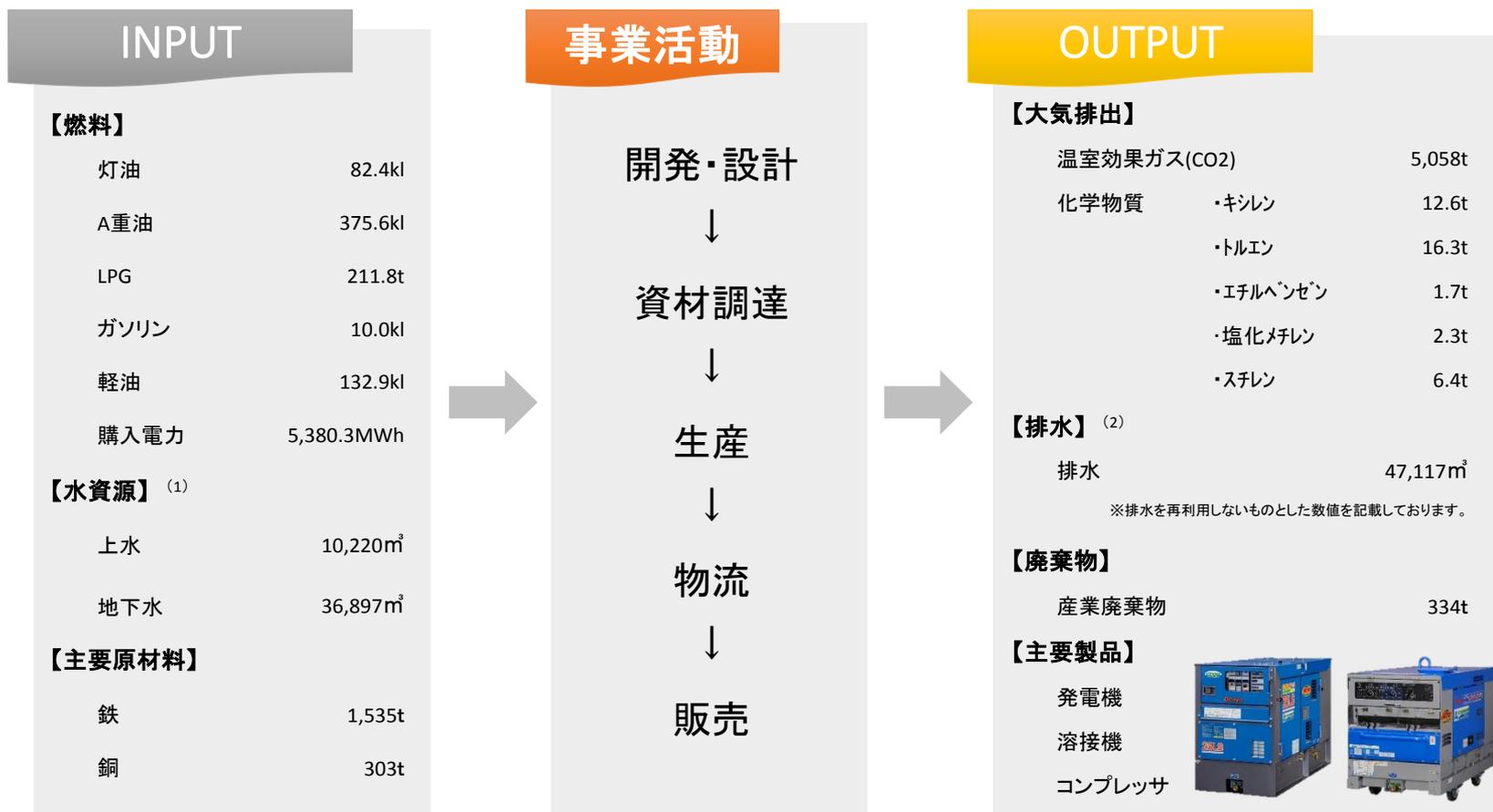
マネジメント

Management



環境負荷の全体像

デンヨーでは事業活動の物質投入量を把握し、環境負荷低減に努めております。



注 (1)(2)の集計対象範囲は、福井工場・滋賀分工場となります。

(2014年度実績)

製品における 環境配慮

Eco-Friendly Products



Contents

環境性能の高い製品開発 …p.10

サイマルジェネレータ

ハイブリッド投光機

製品における環境配慮

Eco-Friendly Products



環境性能の高い製品開発



サイマルジェネレータ

サイマルジェネレータは、三相と単相それぞれ独立巻線方式を採用したことで、三相と単相3線式の同時出力を可能にしました。わずらわしい切り替え作業がなくなり幅広い現場で対応が可能です。

当社従来機では、水中ポンプやコンプレッサなどの三相動力負荷と仮設事務所の照明やエアコンなどの単相負荷を同時に使用するには、三相発電機と単相発電機をそれぞれ運搬・設置する必要がありました。サイマルジェネレータなら1台で対応が可能ですので、運搬・設置面から環境性能が向上しています。

また、万が一発電機内での燃料漏れ等が発生した場合でも、機外への流出を極力抑えるエコベースを標準装備していますので、河川や港湾といった設置基準の厳しい場所でも安心してご使用いただけます。



DCA-45LSKE-D



ハイブリッド投光機

ハイブリッド投光機は、バッテリーとエンジンを組み合わせた投光機で、騒音と排気ガスの発生を抑制し、環境に配慮した製品です。

昼間など作業をしていないときにバッテリーの充電をしておき、夜間の作業時に充電されたバッテリーを使用してライトを点灯することで、騒音・排気ガスの発生がなく、深夜におきましても周辺環境に配慮しながらの作業が可能となります。

また、ライトの点灯によってバッテリー残量が10%以下に低下すると自動的にエンジン発電機を始動し、ライトを点灯したままバッテリーを充電します。バッテリーの充電が完了すると、自動的にエンジン発電機を停止させ、バッテリー投光機として稼働します。

さらに、当社エンジン投光機と比較して燃料消費量が10%以上改善しており、燃料消費量の面からも環境に優しい製品といえます。



PL-104LB-G

生産面における 環境配慮

Eco-Friendly Production



Contents

地球温暖化防止 …p.12

資源循環型社会の形成 …p.12

化学物質の管理 …p.13

生産面における環境配慮

Eco-Friendly Production



地球温暖化防止

CO2排出削減

デンヨーでは、事業活動にともない排出されるCO2の削減に取り組み、地球温暖化防止に努めております。

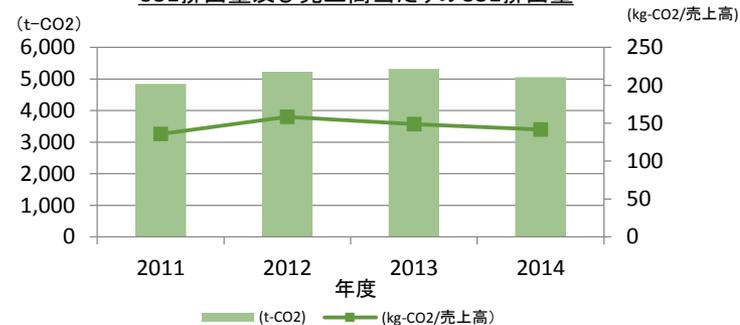
2014年度のCO2排出量は5,058tで、2011年度比4.3%増となりました。これは使用電力について各電力会社により定められているCO2排出量への換算係数が増加しているため、CO2排出量換算前の電気使用量は2011年度比13.6%減少しております。また燃料等の使用量についても2011年度比19.0%減少いたしました。

2015年度もCO2削減に向けた取り組みを継続して実施してまいります。

	電気 使用量 (千kWh)	燃料等 使用量 (GJ)	換算後の CO2排出量 (t)	売上高当たりの CO2排出量 (kg)
2014年度	5,380.3	33,825.2	5,058	141.7
2011年度	6,224.3	41,736.6	4,850	135.9
2011年度比	△ 13.6%	△ 19.0%	4.3%	4.3%

※売上高はデンヨー単体の売上高です。

CO2排出量及び売上高当たりのCO2排出量



資源循環型社会の形成

廃棄物の削減

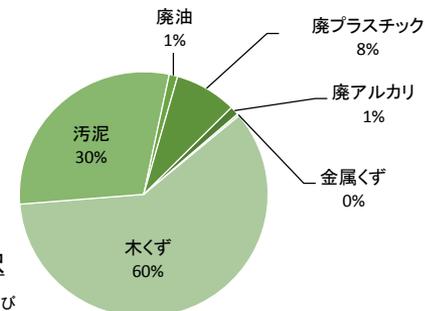
廃棄物については、関係諸法令に従い適切に管理及び処理を行っております。

2014年度の産業廃棄物の排出量は約334tで、2011年度比生産高当たり8.3%減となりました。

また、2016年度末までに2011年度比15%以上削減するという目標に向け、引き続き廃棄物の削減に取り組んでまいります。

廃棄物の排出量内訳

※集計対象範囲は福井工場及び滋賀分工場となります。



生産面における環境配慮

Eco-Friendly Production



化学物質の管理

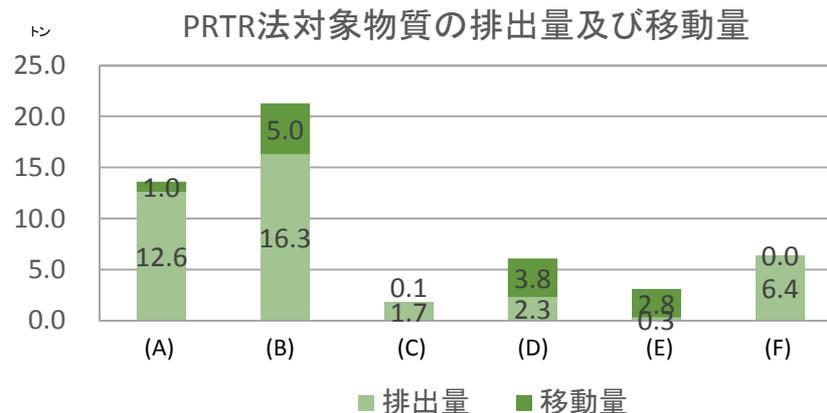
PRTR対象化学物質の管理

PRTR法に基づき、PRTR対象化学物質の環境への排出量、廃棄物としての移動量を把握し、集計・公表しています。

※PRTR(Pollutant Release and Transfer Register : 化学物質排出移動量届出制度)とは、有害性のある多種多様な化学物質がどのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計・公表する仕組みです。

物質名	大気への 排出量	移動量
(A) キシレン	12.6	1.0
(B) トルエン	16.3	5.0
(C) エチルベンゼン	1.7	0.1
(D) 塩化メチレン	2.3	3.8
(E) テトラヒドロメチル 無水フタル酸	0.3	2.8
(F) スチレン	6.4	0.0

(単位:トン)



トピックス

Topics



Contents

- 本社事務所における環境対策の状況 …p.15
- 開発拠点における環境対策の状況 …p.15
- 生産拠点における環境対策の状況 …p.16

トピックス

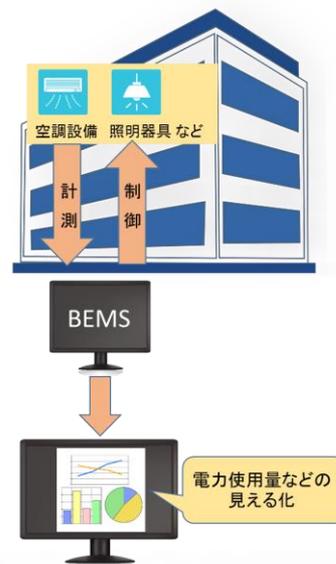
Topics



本社事務所における環境対策の状況

BEMSの導入

本社事務所では2012年度よりピーク電力抑制および省エネルギー推進への対応として、ビルエネルギー管理システム（BEMS：Building Energy Management System）を導入しています。BEMSは、建物内で使用する電力使用量などを「見える化」することで、電気使用の効率化を図るエネルギー管理システムです。空調などの自動制御やピーク電力の抑制を図ることが可能となり、省エネルギーやCO2排出量の削減に貢献します。



開発拠点における環境対策の状況

緑化の取り組み

開発研修センターでは、建屋の回りに芝生を張り、敷地を取り囲む植栽の剪定等も定期的に行っております。その結果、緑の配置や維持管理が認められ、埼玉県環境部より「優良緑化計画認定者」として認定されました。開発研修センター以外にも、本社事務所では屋上を緑化し、生産拠点でも植樹の推進や雑草地帯の整備・清掃活動を行っております。

トピックス

Topics



生産拠点における環境対策の状況



LED照明

福井工場では、天井照明を水銀灯からLEDに交換する作業が進められています。

LED照明に交換することで、光量を保ちつつ消費電力を大幅に減らすことが可能です。消費電力を減らすことによって、CO2排出量の削減にもつながります。

また、LED照明は器具本体からの発熱量が少なく、室温にほとんど影響を与えません。従って夏場の空調の冷却効果がアップし、照明以外の消費電力も減らせます。

LEDには、水銀等の有害物質が含まれていないことから、環境にもやさしく、水銀灯に比べて寿命が長いので、ランプ交換のメンテナンス労務も削減できます。

今後も環境負荷低減に向けた努力を重ねてまいります。



5S活動

福井工場では、定期的に5S活動を行っています。

左の写真は、パレット置場の整理前と整理後の写真です。必要なもの、不要なものを判断し、必要なものをきちんと整理することで、不慮の事故等を防ぐことができ、業務効率も高まります。

今後もデンヨーグループでは、職場環境の整備を推進してまいります。



整理前



整理後

●技術で明日を築く ————— デンヨー®
Denyo

 **デンヨー株式会社**

本 社：〒103-8566 東京都中央区日本橋堀留町2-8-5
TEL:03(6861)1111 FAX:03(6861)1181
ホームページ：http://www.denyo.co.jp/